

近衛中学校 令和5年度前期学校評価アンケート

考察(全国学力調査生徒質問紙との比較から)

1, 学校教育目標【自主自律そして自治】への到達度
「社会や人とのつながりを大切にし 可能性を最大限に探究する たくましく生きる生徒」

Q, 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(社会や人とのつながりを大切にする)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	前期計
全国	19.6	44.3	63.9
京都府	18.1	44.1	62.2
生徒	21	46	67

【考察】

この項目は毎年本校は全国、京都市より数値が上回っている。コロナ禍で地域とのつながりが疎遠になっていたのが、コロナ禍が終息し、地域との行事も復活し、地域とのつながりもまた出来てきたように思う。

Q, 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(可能性を最大限に探究する)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	前期計
全国	15.3	39.7	55
京都府	13.7	37	50.7
生徒	15	41	56

【考察】

自主自律という教育目標のもと、学習でも自分で考え、学ぶということにも、スケジュールノートを使って、自ら考え自己管理できるしくみも作り、2年目となる。今までこの項目は全国、京都府に比べて大変低かったが、今期は全国、京都府を上回る数値となり、効果が見えてきている。

Q, 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している(たくましく生きる)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
生徒	19	51	70
保護者	17	54	71
教職員	11	72	83

【考察】

例年、京都市が全国に比べ低い項目である。近衛中学校は学校行事や学級活動など、日々の教育活動の中で、失敗を糧とし、たくましく生きる生徒の育成を目指している。この数値も昨年度より上がり、日々の教育活動が失敗を恐れずに挑戦していく姿勢が着実に育っていると思われる。

2, 自己有用感について (保護者、教職員アンケート含む)

Q, 自分には良いところがあると思いますか(生徒)

Q, 学校で子どもの自己肯定感は育まれている(保護者)

Q, 生徒の自己肯定感を高めるように指導方や活動の場の提供など努力している(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	前期計
全国	37.2	42.8	80
京都府	34.5	43.6	78.1
生徒	34	48	82
保護者	31	57	88
教職員	55	45	100

【考察】例年、京都府が全国に比べ低い項目であるが、近衛中学校が昨年の後期より全国を上回り、前期は全国より2ポイント上回っている。近衛中が2年前から生徒指導の三機能の取組を進め、自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係を授業や生活の場面でそれぞれの教職員が生徒の「自己指導力育成」を図っている。昨年までは、昔からの土地柄や人柄(奥ゆかしさや謙虚さ)がそのような結果を出しているようにも見とれたが、今年度の生徒の雰囲気としては、1年生を筆頭に幼さが残る生徒が多く、素直に自分のよりところを認知したことから、このような結果に結びついたのではないと思われる。

Q, わたしは将来の夢や目標を持っている(生徒)
Q, 子どもは将来の夢や希望を持っている(保護者)
Q, 生徒は将来の夢や希望を持っている(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	前期計
全国	39.4	26.7	66.1
京都府	36.4	27.1	63.5
生徒	33	32	65
保護者	17	48	65
教職員	5	89	94

【考察】今まで全国より低い数値であったが、昨年度より全国と同等の数値となってきた。学校生活の中での経験や、体験の中から、将来への展望を持たせ、それにむけてのも目標を自ら立て、それに向けて努力する姿勢も併せて養いたいと考える。

3, ICTの使用について (保護者, 教職員アンケート含む)

Q, 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(生徒)
Q, 子どもはコンピューターなどのICT機器を学習に役立てている(保護者)
Q, 生徒がコンピューターなどのICT機器を学習に役立つように授業で使用している(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	前期計
全国	58.7	34.6	93.3
京都府	56.8	35.3	92.1
生徒	48	43	91
保護者	30	58	88
教職員	37	53	90

【考察】例年、全国、京都府に比べ若干低い数値になっている。現在GIGAスクール構想のもと、タブレットの持帰りを始めているが、学校と家庭とで効果的な学習が出来るよう、教職員の体制も進めていきたい。保護者が低い数値になっているのは、昨年度同様、生徒が、学習以外でICT機器を使用し、夢中になることを懸念されていることに起因すると思われる。

Q, 携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について学校や家の人と約束したことを守っている(生徒)
Q, 子どもは携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について約束したことを守っている(保護者)
Q, 生徒は携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について学校で約束したことを守っている(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	前期計
生徒	40	50	90
保護者	22	56	78
教職員	16	79	95

【考察】昨年同様、生徒は携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について、90%が約束を守っていると答えているが、保護者については守れているが78%と隔たりがある。生徒や保護者には、携帯教室や学活、家庭教育学級などで、ICT活用について正しい知識を身につけていけるようにしている。

Q, あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(生徒)
(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)

	501冊以上	201冊～500冊	前期計
全国	11.8	3.8	15.6
京都府	12.3	4.4	16.7
生徒	23.2	17.9	41.1

【考察】

近衛中学校の大きな特長として、全国や京都府から大きく上回る、家庭の本の数である。本校図書館でも貸出の冊数が多く、家庭でも本に触れ合う機会が多いこと、また家庭での読書の習慣が伺える項目である。情報機器が発達し、デジタルでの読み物などが増える中、実際に本を手にとって、本に触れての読書のよさを、本校から発信していけたらいいと考える。

(国語科から)

文字に慣れており、説明文よりも物語を読む力を持っている生徒が多い、幼少期より読書量が多いと読み取れ(読解力が高い)、親御さんとも本について語り合うことがあると言っている生徒もあり、保護者もまた読書をしている方が多いと感じ取れる。

